

■ 子どもとの意見交換会結果

本計画は、大人のみならず子どものための計画でもあることから、さまざまな立場の子どもから、意見を聞く必要があります。

このことから、学校や施設などを訪問し、子どもの権利に関することや学校・地域での活動についてなど、子どもとの意見交換を行ったほか、平成 21 年度札幌市子ども議会の子ども議員と推進計画の体系に基づき複数のテーマについて意見交換を行いました。

以下に、素案策定までの間に行った、子どもとの意見交換の概要を掲載しています。なお、素案策定以後も、素案の策定についての報告を中心に子どもとの意見交換を実施しています。

【 意見交換の概要 】

外国籍の子どもの意見

<p>実 施 日 出 席 者</p>	<p>実施日：平成 22 年 7 月 9 日 訪問先：北海道朝鮮初中高級学校 出席者：同校生徒 10 名、同校教諭 1 名、札幌市子どもの権利委員会委員 1 名、札幌市子ども未来局職員 3 名</p>
<p>概 要</p>	<p>(1)子ども権利について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強をすることや、助けてと言えること。 ・自分たちは国籍による差別を受けていると感じる。 ・歴史を学ぶことで意識が変わることも多いと思うので、理解をしてもらいたい。 ・自分たちのことを知ってもらいたいし、教えていくのも自分たちの役目だと思う。 ・歴史などが分かっていないせいか、比較的若い世代の方が、からかったりする。 <p>(2)学校や地域での活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のある地域では存在が認められつつあるが、学校を離れ、地域に入るとマイノリティの立場となり主体的に地域と関わるのは難しい。 ・学校が終わった後、小学校高学年からはクラブ活動があり、忙しい。(教諭) ・学校祭などで自主的な催しを行っており、作業やお互いの意見の折りあいをつけるのが大変だが、達成感はある。 <p>(3)札幌市のまちづくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利が保障されるため自分たちの存在を知ってもらいたいし、そのことが子どもの権利につながる。 ・日本の学校との交流会や、違う国や民族の文化を知ることができる、まちづくりをしてもらいたい。 ・日本の学生と朝鮮の学生がふれあいをもち、壁を作らないでもらいたい。 ・日本人にも歴史のことを学んでほしい。朝鮮人らしく生きたいので、差別をしないでほしい。

外国籍の児童を含む子どもの意見

<p>実施日 出席者</p>	<p>実施日：平成 22 年 7 月 21 日 訪問先：札幌市立北九条小学校 出席者：同校生徒 13 名、札幌市子どもの権利委員会委員 1 名、 札幌市子ども未来局職員 2 名、教育委員会職員 1 名</p>
<p>概要</p>	<p>(1)子どもの権利について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見を発表することについて、自分の考えがあっても、周りから間違いを指摘されたり、批判されたりするのはと心配して、意見を言いにくいとすることがある。 ・いじめや、外国人に対する差別がなく、みんなが安心して生活できることが大切だが、実際には守られていない。 ・外国の子どもに対して、差別せず、日本人と同じように普通に接するようにしている。 ・自転車の運転やタバコのポイ捨てなど、マナーの悪い大人がいる。大人も子どももマナーやルールを守り、みんなが安心して生活できるようにしてほしい。 ・大人から「お前」と呼ばれる、親から兄弟姉妹と比較されると嫌な気分になる。 ・安心して生きる権利について、不安や恐れを感じた時でも、誰か自分を守ってくれる人がいると思う。 ・自分らしく生きる権利について、周囲を気にして「自分らしさ」を出せないこともある。 ・学校の成績など秘密が他人に知られると嫌な思いをするので、プライバシーが守られるようにしてほしい。 ・学校の問題点について投書する意見ボックスがあり、その中からテーマを選んで解決策などについて議論をしている。 <p>(2)条例に規定する 21 の権利に関して挙手または聞き取りを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもに関する実態・意識調査」で「守られていない」と回答した割合の高い上位 5 つの権利について、多くの子どもが、守られていないと回答 <ul style="list-style-type: none"> ア 命が守られ、平和と安全のもとに暮らすこと イ いじめ、虐待、体罰などから心や体が守られること ウ 障がい、民族、国籍、性別その他の子ども又はその家族の状況を理由としたあらゆる差別及び不当な不利益を受けないこと。 エ 個性や他人との違いを認められ、一人の人間として尊重されること オ プライバシーが守られること ・次の権利については、今回の意見交換会では、子ども全員が守られていると回答した。 <ul style="list-style-type: none"> ア 愛情を持ってはぐくまれること イ 気軽に相談し、適切な支援を受けること ウ かけがえのない自分を大切にすること

学校運営への参加に取り組んでいる高校生の意見

<p>実施日 出席者</p>	<p>実施日：平成 22 年 7 月 21 日 訪問先：北海道札幌平岸高等学校 出席者：同校生徒 9 名、同校教諭 2 名、札幌市子どもの権利委員会委員 3 名、札幌市子ども未来局職員 1 名</p>
<p>概要</p>	<p>(1)子どもの権利について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめや虐待は子どもから大事な居場所を奪うので、子どもが守られる計画を作ってほしい。 ・他人と違うということを理由にいじめを受けることもあるため、条例で規定する「個性や他人との違いを認められる」ことは大事である。 ・条例 12 条に関して、親子のコミュニケーション不足が問題となっている。保護者は子どものささいな変化などに気づいてほしい。 ・子どもが自分の権利を主張できる機会は少ないので、そのような場があるとよい。 <p>(2)学校運営への参加について</p> <p>【三者会議について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生の決めたルールではなく、三者（自分たち）で決めたルールだから「守ろう」という気持ちが生まれる。 ・始まるまでは生徒側の意見を絶対に通したいという思いが強かったが、会議が始まると、保護者や学校（教師）の意見にも共感できる部分があり、自分たちの意見のみを主張すべきではないと感じた。保護者からは、予想していなかった意見もでて意外だった。意見をまとめるために、クラスの話し合いを集約していく過程が、困難であったがやりがいも感じた。 <p>【生徒活動について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校祭などいろいろなイベントの企画運営を仲間と協力して行うこと、自分の意見を主張できる場所があること、自分を認めてもらえる場所があることが魅力である。 ・意見は持っているが言うのは嫌だという生徒もいる。小規模な話し合いの場があるとよい。 ・入った当初は意見を人前で話すことが苦手だったが、徐々に慣れ、自信がついてきた。 <p>(3)札幌市のまちづくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの「ポイ捨て」や歩きタバコなどがなく、緑が豊かで自然があふれるまちになってほしい。 ・ちょっとした感謝の気持ちを伝えることができる社会になってほしい。 ・外で遊べる環境が少ないので、子どもの集まれる場所（公園など）を増やしてほしい。

フリースクールなど民間施設に通う子どもの意見

<p>実施日者 出席者</p>	<p>実施日：1回目：平成22年10月27日、2回目：11月5日 出席者：1回目：中学生以上8名 2回目：小学生1名、中学生以上8名 札幌市子ども未来局職員2名</p>
<p>概要</p>	<p>(1) 放課後に熱中したり夢中になっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に勧められてボランティア活動をしている。平日の昼間の活動が多いため、参加の機会が限られている。 ・以前通っていた学童保育で、ボランティアとして子どもと遊んでいる。大変だが、頼られていると感じており、今も手伝っている。 ・友人に誘われてバンド活動をしており、人前で歌うことで自信が付き、親からも明るくなったと言われた。 <p>(2) 現在通っている施設について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前いた学校と比べ、自分のペースで勉強ができ、精神的に楽だと感じる。 ・授業数が少ないので、自主的に勉強する必要があり、努力しやすい。以前は自分が何をやりたいか分からなかったが、ここは自分の夢をかなえやすいと思う。 ・スタッフは、自分と対等に話ししてくれる優しい先輩のような存在。 <p>(3) 悩みごとの相談相手について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悩みを相談する相手は、内容にもよるが、母親か友人が多い。 ・アンケート調査の結果を見ると、学校の先生に相談するという回答は低いが、ここで調査すればもっと高い数字になると思う。 <p>(4) 子どもの権利について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6名が子どもの権利条例を「知っている」と回答。(1回目) ・4名が子どもアシストセンターを「知っている」と回答。(2回目) <p>(5) フリースクールなどに通うことについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当は毎日通いたい、母親から授業料が高いので毎日は無理と言われている。市で負担してもらいたい。 ・フリースクールなどの情報を得るのが非常に難しいため、市で紹介してほしい。 ・高校に行きたいが、中学校からは出席日数が足りないと言われている。出席日数だけで自分の将来がせまくなるのは嫌。 ・13名がフリースクールなどへ通っていることで嫌な思いをしたことが「ある」と回答。(1回目と2回目の合計)(前の学校の友人から、「楽でいいね」と言われたり、自分たちとは違うという目で見られるなど) ・自分はここに来ていることを誇りに思っている。 <p>(6) 学校について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の悩み相談室は場所が隅にあり、ドアも閉まっており、とても入りづらい。もっと開放的になってほしい。 ・相談室に遊びに行く生徒が多すぎて、なかなか相談ができなかった。 ・以前通っていた小学校の保健室では先生も話しをよく聞いてくれて良かった。 ・学校の先生は悩みをきちんと聞くなど、問題が小さいうちにしっかりと対処していれば、不登校など防ぐことができることも多い。 ・仕事なので相談を聞くという先生が多いように感じる。もっと親身になって話を聞いてほしい。 ・先生に相談しても聞いてくれなかった。悩みごとの原因が先生だった。 <p>(7) 札幌市に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地下鉄の乗車賃を安くしてほしい。 ・図書館で借りた本を郵便で返すことができるようにしてほしい。 ・公園をもっと増やしてほしい。

平成 21 年度札幌市子ども議会子ども議員

<p>実施日 出席者</p>	<p>実施日：平成 22 年 8 月 2 日、8 月 4 日の 2 日間 出席者：子ども議員 16 名（1 日目 14 名、2 日目 12 名） 札幌市子どもの権利委員会委員 2 名、札幌市子ども未来局職員 3 名</p>
<p>概要</p>	<p>(1)子どもの参加について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に参加しているのは、町内会のお祭り、児童会館の行事、ボランティア活動、子ども議会など。 ・参加したきっかけは、先生や保護者など周りの大人に勧められて参加したほか、広報物（パンフレット、広報さっぽろ、回覧版）を見て面白そうと思った。 ・参加しない理由は、「つまらなそう」「話し合いばかり」「興味がない」など、自分の興味のあることしかやらない子どもが多い。 ・子どもの参加を進めるには、まずは回覧板・新聞広告、口コミ、メール、ブログなど、きっかけをつくり、子どもの興味をひくため、例えば実際の参加者の体験談を紹介、一年間の活動を掲載したものを作成するなど、内容を充実させることが重要。 <p>(2)安心して過ごせる居場所について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心できる場所は、家、学校、児童会館、図書館などであり、理由は、安心できる人がいる、腹を割って話せる・話の合う友だちがいる、相談できる人がいる、自分の世界を持てる、いつも過ごしているから落ち着くなど。 ・安心できない場所は、家、学校など、理由は、兄弟と比較される、子ども扱いされる、勉強しろと言われる、うるさい、束縛されるなど。 ・安心して過ごす居場所を作るためには、意見を言うことができる雰囲気づくりや他人の意見を否定しないなど、自分の意見が尊重されることが重要である。 ・居場所ができると、色々な人と出会い、自分の好きなことや得意なことが見つかるので、いきいきとし、自分が成長できる。 <p>(3)子どもの権利の侵害について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利とは、いじめ、虐待、差別を受けないことやプライバシーが守られ、自分の意見を言うこと。 ・権利侵害が起こる要因は、子ども同士のいじめや差別であれば相手のことが気に入らない、人と違って目立っていたりするため。大人が子どもの権利を侵害する場合は、子どもは大人に従うのが当たり前だと思っている、子どもに権利侵害があることを知らないためなど。 ・特にいじめは、自分がいじめられないために他の人をいじめたり、先生に報告するとよりいじめが増えるといった悪い連鎖が起きている。 ・権利侵害を起こさないためには、いじめであればクラス全体で解決する、環境を変える、自分も誰かをいじめないこと。他には意見を言える場をつくる、個性の違いを受け入れる、相談機関や周りの大人に相談するなど。 <p>(4)子どもの権利の広報について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットを見たことがあるのは半分くらい。配布されても内容が固そうで興味がわからない。 ・パンフレットなどの広報物を見ていないので、子どもの権利について正しく理解をしていない、できないため、誤った内容で覚えてしまう。 ・広報物を見るための解決策は、アニメ・マンガなど 15～20 分程度の DVD を作成し、親しみやすくする。（他の意見：学校祭で先生が演劇で発表、「間違い探し」「検定」「パンフレットに子どもの権利一口メモを入れる」、「学活の時間に使う」「授業の題材」「作文を書く」（賞品付き）ほか、市の広報誌などで大人に対しての広報も必要。） ・小学生低学年と高学年、中学生、高校生で内容や伝え方を変える。

《子ども議員がまとめた資料》

子どもの参加について

参加している企画

現状

- 興味のあることだけしがちな。
- 親があるから参加する。

子どもは興味あることしびやらないけど

問題点

- どのように広めるのか
- どのようにものならやっていたい。

全部が全部 やってあげたい訳ではない。

子どもがやってみたら楽しかった!!

- ・アンケートをとる。
- ・参加者の体験談を載せる。
- ・活動終了後の楽しさを企画にもつなぐ。
- ・一年間のボランティア活動が載っている「ボランティアカレンダー」を製作する。

広めるためには

- ・回覧板
- ・口コミ
- ・新聞の広告
- ・メール
- ・リツイート
- ・ブログ
- ・人を誘う
- ・キックオフづくり!!

安心して過ごせる居場所

〈安心できる〉	〈安心できない〉
<p>場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館 ... 静か、読書できる ・体育館 ... さわげる ・スーパー ... (食料が)見て楽しい ・学校 ... 友達がいる ・家 ... いつも過ごしているから、落ち着く <p>事人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽 ... 読書(雑誌、マンガ) ・インターネット ... 時計の針 ・友達 ... ベット ・相談できる人(友達、親、部活の人) 	<p>場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンサート ・塾 ・学校 ・家 ... 親、家族がいるから落ち着かない <p>事人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活 ・時計の針の音 ・兄弟(姉妹) → うるさく ・両親 → 勉強はさせない、お金の事

〈安心できるとは?〉

- 好きなことができる → 時間が長いからできない → 無駄を省く!
- (好きなこと) → スポーツ(野球、バスケ、サッカー) 音楽、ピアノ、読書、友達と遊ぶ
- 自分の意見が尊重される → 意見を言う場、意見が聞き取れない?
- 意見が聞き取れる(アンケート、議長、部活、意見箱作り)
- 自分の意見を持つ
- 他人の意見も取り入れる → 意見しない、聞かない?

安心して居場所について。

安心して居場所 →

→ 児童会館 ・ 生徒会室 ・ 放送室 ・ クラス ・ 家 ・ 車の中

どうして落ち着くのか？

- ・ 自分の世界 ・ 友達と一緒に居る。
- ・ 安心できる人が居る。守られている。安全、家族が居るから。
- ・ 自分の言いたい事を言える。自分の空間がある。
- ・ 誰を明けて話せる相手がいる。

なんで落ち着かないのか？

- ・ うるさい ・ 目障り？
- ・ アレクシターガカウ。・ 束縛される。

子どもが安心して居場所づくり

いじめられている人がいる場合 →

- 元気つける
- 気にかけてあげる
- 近所の人と声かけあがる

・ ボランティア参加をすすめてあげる。

・ 人生の先輩との話。

(見物) ・ スイスイピング ・ テルッ ・ 野菜の収穫
・ 年間を通じた活動の企画

色々な人との出会い

↓
自分がいきいきとしているとき

- 周りから認められたとき
- 友達と遊んでいるとき
- 自分の好きなこと、得意なことをやっているとき
- 大会で発表しているとき

自分が成長!!

見(物) 全世
- 5月20日

子供の権利侵害について

・ 子供の権利とは？

- ・ 11歳未満の子 → ややけ
- ・ 虐待 → 児童相談所
- ・ 暴行
- ・ プライバシー → エンゲージ
- ・ 自己の意見を言う → 年齢に応じた
- ・ 安心して過ごす

→ <身近な体験>

- ・ いじめ - 仲間はずれ
- ・ くつろぎのイタズラ
- ・ 悪口 (陰口)
- ・ 自分の意見を言えない
- 誰かに何をされる
- (話されている人がどう感じる)
- ・ メール
- 原因を突き止める
- 悪口を止める

← <なぜいじめは起こる？>

- いじめられる側
- ・ 変いから
- ・ クラスでの立場
- ・ 自分がやられたくないから
- いじめられる側
- ・ 人とちがうから
- ・ 人の気持ちの分らないから
- ・ 誰かの人に原因があるから

まとめ

<いじめをひかすには？>

- ・ やられる側を助ける
- ・ クラスを分けて 環境を変えていく
- ・ クラス全体で解決していく
- ・ 友達の助けをかり解決していく
- ・ いじめをする人はもういじめられたい相手に相談して
- いじめに発展させずに人間関係修復をすすめる
- ・ いじめられている方は相談先に相談して
- 自分自身の解決していく
- ・ 先生に知らせる

同じ - 自分がやられたらサグから
正めに入れない、注意できない

いじめられる → いじめ直す
他人をいじめる

→ 先生が入る (結局は意味がない)
→ 手つた! というのが増す

!!子どもの権利侵害について!!

◎子ども同士の権利侵害に×となる
(例) いじめ・差別・人と違うこと。

- 気に入らないから
- 目立つから

◎大人による子どもの権利侵害について◎
(例)虐待・差別・人権うた・体罰・セクハラ。

何故?

- ◎子どもが大人のおういし聞のはあり前!
- ◎子どもに権利があるのを知らない。

子どもも大人も子どもに権利があることを知るべき!

◎権利侵害が起こらないために◎

- ・意見の言える場をつくる。 (カウンセラーの人、身近な人に相談)
- ・個性の違いを受け入れる。 (例) = 大人がバカンス良く入り込み、子どもの個性を尊重する。

◎もし起こってしまったら◎

- ◎ 助けを求め、声かけ
- ◎ 手紙を書く

◎友達のように行く ◎自分の家にはおまわりしてあげる ◎近所の人への声かけ

なにかがさび せーい... Stop!!

△!子どもの居場所づくりが大切!△

子どもの権利の広報について。

現状

→ 配付されても見ない人が多い。(パンフレットは半分くらいの人しか見てない!)
↳ 興味が沸かない。 固そう。

→ 見ないからちゃんとした理解をしない。子どものご関連した内容を覚えてもらう!!

解決策

- アニメ、コミックなどで親しみやすくする。(15~20分程度のものにす)
- ◎ 学校祭などで劇などにして楽しめる感じにする。
- ◎ あくまで容易に理解できる程度に細かくする。

その他に出た意見~

- ◎ 模定 ◎ パラエター化 ◎ 作文(作品誌) ◎ 実写
- ◎ 授業 ◎ 市の広報などで大人にも知ってもらおう。
- ◎ 年齢によって伝え方を変える。